

第5分科会 医療施設と在宅をつなぐケア

～多職種連携で患者を支える～

◇運営委員	高橋 多鶴子	(全日赤医療センター第一労組)
	小笠原めぐみ	(慶応病院労組)
	山崎 博子	(全日赤医療センター第一労組)
◇助言者	内野 陵子	(元勤医会東葛看護専門学校副校長)

安倍政権が進める社会保障・税の一体改革のもと、医療・介護の提供体制が2025年をめどに大きく再編成されてきています。医療費抑制のために「地域包括ケア」の構築を着々と進め、在宅療養体制が未整備のまま病床削減が行われています。

そして特定行為研修を修了した看護師たちが実際医療現場で医行為を実践できるようになり、在宅での看取りに対しては、医師の直接診察を抜きに死亡診断書交付ができるガイドラインが各都道府県に通知されました。

現在急性期病院に入院した医療依存度の高い患者が短期間で在宅療養、あるいは療養型病院へ転院を余儀なくされています。更に超高齢社会となった今、老老介護、認認介護、独居高齢者の方々が在宅療養生活を送るために相当な援助が必要となり、在宅の現場では、スタッフも家族も毎日奔走している状態です。

このような状況で、在宅医療の担い手である医療・介護スタッフはまだまだ不足しており、多くの課題や問題が生じています。

この分科会は、「患者が安全で安定した在宅療養生活をおくるために、どのように連携し、それぞれの専門性を発揮し、役割を果たしてゆくのか、患者のニーズに即した実践をしてゆくのか」について学びます。

ますます地域包括ケアや在宅医療推進が求められている今、病院や診療所などの医療施設に従事するスタッフと、在宅療養を支える訪問看護、訪問診療、訪問介護にかかわるスタッフ等多職種の参加をお待ちしています。

■レポート募集（以下の内容のレポートお待ちしております。）

- ・外来看護の実践に関する報告
- ・在宅療養移行のための退院調整や地域連携の取り組みに関する報告
- ・訪問診療、訪問看護看護の実践に関する報告
- ・介護施設や訪問介護での実践報告